

体育科 授業実践報告

単元名 跳び箱を使った運動遊び 力試しの運動遊び

令和5年1月19日(木) 第5校時
授業実践 第1学年2組

《本時のねらい》

- ・両手を勢いよく付いて跳び箱にまたぎ乗ったり、腕支持で跳び箱を移動してまたぎ下りたりできるようにする。

【知識・技能】

深い学びポイント

1 つかむ	2 見通す	3 自力	4 協働	5 練り上げ	6 メタ認知
<p>《授業展開の工夫》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「忍者の修行」という児童が楽しめるテーマを設定する。 ・またぎ乗り・腕支持での跳び箱の移動とじゃんけんを組み合わせたゲーム性のある活動を行う。 ・「バン」等の擬音語や擬態語を活用して跳び箱に着手をする際の動きのポイントをおさえる。 <p>上記のような工夫をすれば</p>					
<p>《児童の変容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意欲をもって跳び箱の技能を高めようとし跳び箱運動に必要な腕支持の感覚を身に付けるようになるだろう。 					

深い学びに到達させる手立て 1

運動を行う楽しさを味わわせる場面設定をする。

肘が「ピン」と伸びているね。腰も高く上がって上手だね！

手は大きく開いて、肘を伸ばしてカッコいい馬になろう。

手を遠くについてどンドン前に進もう。



動物に変身

- しゅぎょうのじゅんばん
- 1 あいさつ・たいそう
 - 2 へんしんのじゅつ
 - 3 とびばこのじゅんぴしゅうごう
 - 4 バンのじゅつ
 - 5 ふりかえり



「忍者の修行」のテーマを基に、動物に変身して体を動かす慣れの運動や、またぎ乗り・腕支持での跳び箱の移動でのドンじゃんけんを行った。

動物の動きを真似しながら、腕で体を支える動き、腕を支点にした体重移動を行う感覚を身に付けることができた。

深い学びに到達させる手立て 2

1つ1つの知識（わかる）・技能（できる）につながりをもたせる。



腕の力だけ
前に進むぞ！



私は、レベル1の
高さで挑戦しよう

授業の前半では、主運動につながる腕で体を支える動きを取り入れた様々な慣れの運動に楽しみながら取り組んだ。また、児童の技能に合わせた運動を選べるようにした。

授業の後半では、慣れの運動で身に付けた、腕で体を支える技能を生かして跳び箱遊びを行うなど、学んだ知識・技能につながりをもたせることができた。



「バン！」

「バン」の術

手を大きく開いて
「バン」と跳び箱に
つけているよ！



深い学びに到達した姿

- ・導入から展開まで豊富な運動を行い、楽しみながら腕で体を支える動きの技能を身に付けることができた。
- ・児童が常に相互に運動観察を行いまたぎ乗り、またぎ下りを上手に行うためのポイントを伝えあったり運動を行ったりする事で、運動が「できる」と「わかる」をつなげることができた。

指導講評

教育研究所 主任指導主事 高橋 明裕先生

- 豊富な運動量を確保し、たくさん慣れの運動、またぎ乗り下りを行う事ができた。
- 学習指導場面の指示・発問が明確で分かりやすかった。
- 児童が常に相互に運動観察を行い、ポイントを伝え合いながら、1年生なりによくかかわりあっていた。
- 教師が児童に対して肯定的な声掛けをさらに行うと、児童のかかわり合いがよりよくなっていく。

成果と課題

- ◎動物に変身して体を動かす慣れの運動や、またぎ乗り・腕支持での跳び箱の移動でのドンジャンけんなど、児童が楽しみながら運動することで本時のねらいに迫る事ができた。
- ◎慣れの運動から主運動まで腕で体を支える技能が身につくようにつながりをもたせて授業を行うことで、児童が豊富な運動量を確保しつつ効果的に技能を身に付ける事ができた。
- △教師が児童への肯定的な声掛けをたくさん行うことで、児童の豊かなかかわり合いが増えるであろう。
- △ねらいの達成に向けて児童自らが調整できるよう、目標を細分化するなど工夫したい。